

## 令和4年度 小中一貫校北山校 校内研究

### 1 研究領域

学力向上

### 2 研究主題

課題解決に向けて主体的に学ぶ児童生徒を育てる授業づくり（3年計画の第2年次）  
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

### 3 研究主題設定の理由

文部科学省の学習指導要領改訂の視点において、子供たちが成人して社会で活躍する頃には、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく急速に変化し、予測が困難な時代になっていくことが示唆されている。このような時代にあって、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協力して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実践し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。そのような新しい時代に必要となる資質・能力として、①「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」②「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（人間性や学びに向かう力等）」が挙げられている。これらの資質・能力を様々な課題の解決に生かし、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、学習過程を質的に高めることが必要とされている。

本校の児童生徒は、小規模校で学年に関係なく子供同士の仲が良く、素直で指示されたことを真面目にやろうとする良さがある。しかし、学習の様子を見ると、児童生徒自らが学習課題を見つけ、自分の力で解決していこうとしたり、そこからさらに疑問をもち粘り強く探究していこうとしたりする力が十分ではないことがうかがえる。また、佐賀県小・中学校学習状況調査の結果から、全体的に読解力に課題があるという本校の実態が明らかになった。そこで、昨年度は、これらの本校の課題を克服するために、問題解決的な学習を取り入れ、授業の導入の工夫の研究を行った。学習の単元における導入や1時間単位の授業での導入を行う場面で、児童生徒が興味・関心を高め、ゴールに向かって自ら主体的に学習に向かい続けていけるような導入の工夫・学習の動機付けを行った。そのことにより、児童生徒は、課題を解決するために、自分で考え、自分から取り組もうとするようになったと多くの児童生徒が感じるようになった。また、「言の葉タイム」や「味見読書」等の取組により、読書の有用性も感じている。

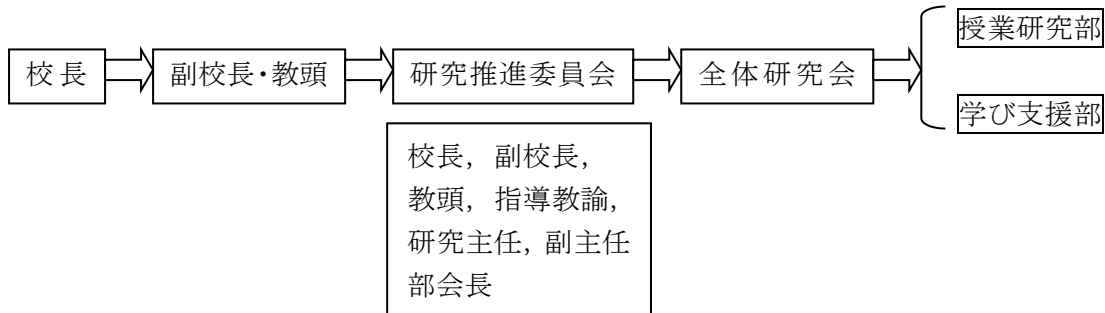
そこで今年度は、昨年度取り組んだ導入の工夫も行いつつ、対話的な学びについての研究を行い、より広がりのある主体的な学びにつなげていきたい。そのためにはまず、本校で行う対話的な学びの目的や方法、対象などについて授業研究部で定義付けを行い、職員全体で共通理解を図りながら授業づくりに取り組んでいく。対話的な学びの活動や、思考を深める場面においての技法として「北山思考スキル」を活用することにより、交流の活性化や思考の深化、加えて、論理的思考力も育成されることが考えられる。また、学び支援部では、読解力を高めるための手立てや学習スキルの研究を引き続き行う。読書の質を高める工夫として行った「味見読書」は、図書館教育と連携を図り取り組むことで読解力向上の一助になると考えられる。家庭学習の取組については、子供たちが力が付いたことを実感できるような、より効果的な方法を検討し取り組んでいく。また、中学部では、自分で学習内容、方法、時間を決め、自分をマネジメントさせるようにする。

以上のような研究を、2部会での取組を柱に実践していくことで、児童生徒は、主体的に学習に取り組む、論理的思考力と読解力も身に付けていくことが期待できる。これらの取組は学力の向上につながると考え、上記主題を設定した。

#### 4 目指す児童生徒像

常に、自ら全力を尽くそうとする心を持ち、主体的に学習に取り組む子ども

#### 5 研究の組織



#### 6 研究の内容・方法等

##### (1) 授業研究部

- 「対話的な学び」の定義付けとその効果の研究
- 「北山校授業モデル」の活用
- 「北山思考スキル」の活用の推進
- 授業研究会の実施
- 教員同士の授業参観期間の実施
- 授業における導入の工夫（継続）

##### (2) 学び支援部 ○ 「言の葉タイム」（スキルタイム）の充実

- 図書館教育との連携（味見読書等）
- 家庭学習の充実と学習の手引きの活用
- 中学部におけるノルティ어의活用

#### 7 期待される成果

- 主体的・対話的学びが深まり、論理的思考力が向上する  
授業の導入の段階で、興味・関心を高める手立てをとり、授業の意図した場面で対話的な活動を取り入れることで、児童生徒の学びが主体的になり、「北山思考スキル」を使うことで論理的思考力が向上すると考える。学校評価アンケートにおける「授業では、課題を解決するために、自分で考え、自分から取り組んでいますか」「授業では、目的をもって対話的な活動に取り組んでいますか」の項目で「できた・だいたいできた」の割合を80%以上にする。
- 書物への関心が高まり、読解力が向上する  
朝の時間に全校で実施する「言の葉タイム」で語彙を増やしたり、読解力を向上させたりすることをねらうとともに、日常的に読書に親しませる工夫を授業内外で取り入れる。学校評価アンケートにおける「読書に親しみ、読書が学習や生活に役立つことを感じましたか」の項目で「できた・だいたいできた」の割合を80%以上にする。